

# 中古文学会 2022 年度春季大会 開催案内

【重要】 会員のみなさまへ

2022 年度中古文学会春季大会の開催形態につきまして、新型コロナウイルス感染拡大状況を鑑み、常任委員会において協議した結果、下記のようにすることと致しましたので、お知らせ申し上げます。ご了承のうえ、ご参加いただきたくお願い申し上げます。

## 記

- (1) 予定通りの日程で現地において開催することとしますが、会員のうち事前申込をされた方がのみが参加できることとします（現地参加申込多数の場合は別室にて視聴をしていただく等のこともあります）。
- (2) 1 日目に懇親会を開催します（お弁当等の黙食を含む第一部と懇談のみを行う第二部の二部制を予定）。参加を希望される場合は、同封の振込票によって事前申込を行ってください。懇親会費は、1,500 円です。懇親会の形態については今後の状況によって変更となる場合があります。また、振り込まれた懇親会費は、懇親会が中止となった場合以外は返金できませんのでご了承ください。
- (3) 2 日目の昼食の販売は行いません。また、休憩室での飲料等の提供は行いませんので、各自でご用意ください。委員会に出席の方は、委員会終了後に各自で昼食をおとりください。
- (4) 現地参加が困難な状況を勘案し、シンポジウム・研究発表等については録画し、大会日程終了後に、事前申込の方に対して視聴できるようにします（事務局が固定カメラによって録画するため、画質・音質等の保証はできません。また、研究発表については録音のみの場合もあります）。視聴後に質問等を行うことはできません。
- (5) 現地参加、録画視聴のいずれの場合も、同封の振込票によって事前申込を行ってください。どちらも大会参加費（資料集代）は 1,000 円です。「資料集」の PDF による配布は行いません。
- (6) 事前申込の方には、現地参加、録画視聴にかかわらず、大会の前（5 月中旬を予定）に「資料集」と「録画視聴の案内」を郵送しますので、現地参加の方は「資料集」を会場に持参していただき、録画視聴の方は、大会日程終了後に「録画視聴の案内」にしたがって視聴してください。事前申込後、現地参加を録画視聴に変更することは自由にできますが、録画視聴を現地参加に変更することはできません。
- (7) 今後の感染拡大状況によっては、大会の全プログラムを遠隔開催とすることもあります。開催形態を変更する場合は、5 月上旬までに学会公式サイトに掲載します。その場合も事前申込の方のみが参加することができることとします。遠隔開催の場合の参加方法は、事前申込の方に「資料集」とともに郵送でお知らせします。事前申込締切後の申込は承ることができませんのでご注意ください。

そのほか、最新情報は学会公式サイトを通じてお知らせします。本件に係る事務局・会場校への個別の問い合わせは、お控えくださるようお願い申し上げます。中古文学会事務局

中古文学会公式サイト <https://chukobungakukai.org/>

## 大会日程・大会会場

大会日程	5月21日(土) 13:00-19:30 (受付) 12:30 開始 シンポジウム、懇親会
	5月22日(日) 09:30-17:00 (受付) 09:10 開始 研究発表会(午前)、委員会、研究発表会(午後)、総会
大会会場	専修大学 神田キャンパス 〒101-8425 東京都千代田区神田神保町 3-8

### 大会参加要領

- 1. 大会参加費**
  - ・参加費(資料集代)：現地参加、録画視聴いずれも1,000円
  - ・懇親会費：1,500円
  - ・入金済み参加費の自己都合による返金、または他の参加者への付け替えなどには応じられません。
  - ・領収書は、振込受領証に替えることとし、別途発行することはありません。
- 2. 申込方法**
  - ・同封の振込票による入金をもって申込を承ります。必要事項をご記入のうえ、上記の額をご入金ください(ハガキによる申込は廃止されました)。
  - ・加入者名 中古文学会 2022年度春季大会準備室
  - ・口座番号 00140-7-266496
- 3. 申込締切** 2022年4月22日(金) \*締切後の入金は固くお断りいたします。
- 4. 住所・所属等の変更**
  - ・住所・所属等の変更は、学会公式サイト「会員ページ」をご利用ください。同封の振込票に記載されても、変更は承ることができません。
- 5. 学会費の納入**
  - ・同封の振込票は【大会参加費専用】です。学会費は納入できません。また、大会会場での学会費納入は受け付けません。
- 6. 出張依頼状**
  - ・氏名・職名・提出先(所属長名)を明記のうえ、ポータルデスクへメールでお申し込みください。
- 7. 会場について**
  - ・キャンパス内は禁煙です。
  - ・駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。
- 8. 宿泊について**
  - ・各自で早めにご予約ください。
- 9. 交流広場(フリースペース)**
  - ・以下の要領で交流広場を開設します。研究者相互の交流・情報交換の場としてご活用ください。  
用途：博士論文要旨・論文抜刷・研究プロジェクト報告書等の展示や配布、研究会・学会等の紹介、会誌等の展示や配布・販売など。  
資格：本学会員に限る。団体の場合は、本学会員が代表者であること。  
申込：氏名(団体の場合は団体名および代表者名)・連絡先の住所・電話番号・メールアドレス・展示物等の内容について、4月22日(金)までに大会準備室へメールでお申し込みください。  
注意：スペースに限りがあるため、申込先着順で受け付けます。  
広場には、机と椅子を用意します。それ以外の対応はしません。  
当日は、受付で利用手続きをしてください。  
交流広場は大会開催中開場します。利用時間は任意です。出品物の持ち込みは各自で行い、終了後はすべて持ち帰ってください。

10. 臨時託児室 ・本大会では臨時託児室は開設しません。

11. 問い合わせ先 ・大会全般に関すること  
中古文学会事務局  
〒150-8440 東京都渋谷区東 4-10-28  
國學院大學若木タワー1012（竹内正彦）研究室内  
E-mail : info@chukobungakukai. org

・参加申込、参加費納入、出張依頼状に関すること  
中古文学会ポータルデスク  
〒111-0041 東京都台東区元浅草 2-10-11 吉延ビル 4F 株式会社新典社内  
E-mail : info@chukobungakukai. org

・会場、交流広場に関すること  
中古文学会 2022 年度春季大会準備室  
〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田 2-1-1  
専修大学文学部 今井上研究室内  
E-mail : t\_imai@isc. senshu-u. ac. jp

\*問い合わせにはできるかぎりメールをご利用ください。

## 大会プログラム

会場 専修大学神田キャンパス

【シンポジウム・研究発表会・総会会場】 10号館 3F 10031 教室

【休憩室】 10号館 4F 10042 教室

【懇親会】 10号館 16F ホール

【委員会】 10号館 4F 10041 教室

【書籍販売】 10号館 5F 10052 教室

第1日 5月21日(土)

12:30	<b>受付開始</b>	
13:00-	<b>開会の辞</b>	専修大学国際コミュニケーション学部学部長 斎藤達哉
13:10-	シンポジウム「源氏物語を〈読む〉—研究の現在」	
17:00	趣意説明	専修大学 今井 上
	〔基調報告①〕 立ち去る夕霧 一玉鬘十帖、「野分」巻以降における機能の再検討—	関西学院大学 星山 健
	〔基調報告②〕 「准拠論」再考—物語の背景を〈読む〉ということ—	日本大学 袴田光康
	〔基調報告③〕 源氏物語における〈無常〉について	東京大学 高木和子
	……休憩 (14:45-15:30) ……	
	パネリスト討議 フロアとの質疑応答	〈司会〉専修大学 今井 上
17:30-	<b>懇親会</b>	
19:30		

第2日 5月22日(日)

09:10-	<b>受付開始</b>
09:30-11:30	<b>研究発表会(午前)</b> [研究発表①] 『源氏物語』明石物語再考—〈族〉〈家〉を起点として— 専修大学〔院〕 加藤千智 [研究発表②] 紫の上と嵯峨野の御堂 —『源氏物語』「若菜上」巻における光源氏の算賀を起点として— 國學院大學〔院〕 亀谷粧子 [研究発表③] 陽明本源氏物語初期五帖の本文の疵と物語世界 富山大学 田村俊介 ……休憩(11:30-13:00)・委員会(11:40-12:10) ……
13:00-16:00	<b>研究発表会(午後)</b> [研究発表④] 『狭衣物語』「燕子楼の中」引用考 九州大学〔院〕 千葉直人 [研究発表⑤] 中世王朝物語にみる宿世の諸相—『源氏物語』を見据えて— 総合研究大学院大学〔院〕 石原知明 ……休憩(14:20-14:40) …… [研究発表⑥] 『栄花物語』にみる天人相関思想—災異への対応を中心として— 関西学院大学 渡橋恭子 [研究発表⑦] 悲恋の齋宮—『栄花物語』における当子内親王と藤原道雅をめぐって— 九州共立大学 二宮愛理
16:00-16:50	<b>総会</b>
16:50-17:00	<b>閉会の辞</b> 中古文学会代表委員 竹内正彦

趣意説明

専修大学 今井 上

〔基調報告①〕 立ち去る夕霧 一玉鬘十帖、「野分」巻以降における機能の再検討—

関西学院大学 星山 健

〔基調報告②〕 「准拠論」再考—物語の背景を〈読む〉ということ—

日本大学 袴田光康

〔基調報告③〕 源氏物語における〈無常〉について

東京大学 高木和子

〈司会〉専修大学 今井 上

〔趣意〕

さまざまなアプローチが試みられ、複雑多岐にわたる『源氏物語』の研究であるけれども、いま一度〈作品を読むことにはじまり、読むことに終わる〉という研究の原点にたちかえってみたい。

ここ二十年ほどのあいだに『中古文学』に掲載された研究論文の約六割は、『源氏物語』に関するものである(拙稿「中古文学百冊瞥見」『中古文学』第百号)。中古文学会会員の、この物語に寄せる関心は、学会発足時にくらべてもいよいよ高く、春・秋の大会においても『源氏物語』や紫式部に関しては、これまで複数のシンポジウムが開かれてきた。いずれも工夫が凝らされ、バリエーションにとんだ企画として、私たちはそれぞれに学びの機会を得たが、それらのシンポジウムにおいても、『源氏物語』をどう読むか、どうすれば新たに読みかえてゆくことができるか、あるいはそもそも読むとはどのような行為であるべきか、ということじたいがテーマに据えられ、正面から議論されたことはなかった。

多くの論者が参加可能なテーマであり、場合によっては一般の人々、他分野の研究者たちにも関心をいだいてもらえるはずのテーマと言えようが、ここ数十年の研究状況をおさえ、研究の現在とこれからを見据えたうえで、いま、『源氏物語』を読むということを、あるいはその可能性を正面から考えたい。

〔文責：今井 上〕

〔基調報告①〕

立ち去る夕霧 ―玉鬘十帖、「野分」巻以降における機能の再検討―

関西学院大学 星山 健

煮詰まったとも評される研究史の蓄積を前にして、今私に何が出来るのか。

重箱の隅を突くことに終始しないよう、これまで「木を見て森を見る」をモットーに研究・教育を進めてきた（拙著『王朝物語の表現機構 ―解釈の自動化への抵抗―』「序章」参照）。今回はその実践として、「野分」巻の一場面に着目しながら、玉鬘十帖における夕霧の果たす機能について再検討したい。夕霧が光源氏の玉鬘への返歌を聞かずに立ち去る設定に物語の意図を読みとろうとする試みである。

〔基調報告②〕

「准拠論」再考―物語の背景を〈読む〉ということ―

日本大学 袴田光康

近年、『源氏物語』の研究においては、儀式・建築・庭園・装束・音楽などの諸文化に関する歴史的な文化研究が盛んである。その一方で、古注釈以来の「准拠」と呼ばれる発想を受け継ぎ、史実との関連から物語を読み解く、いわゆる「准拠論」は少なくなってきたように思われる。「准拠論」はなぜ行き詰ってきたのか。その問題点はどこにあるのか。これまでの研究史を振り返りながら、物語の背景を〈読む〉ということはどういうことなのか、改めて考えてみたい。

〔基調報告③〕

源氏物語における〈無常〉について

東京大学 高木和子

近現代の源氏物語研究は、本文研究、成立論、構想論、人物論、構造論、表現論、文化論、享受史研究など、時には民俗学や歴史学などの成果をも吸収しつつ、時代の潮流とともに変遷してきた。今日では査読システムの影響もあって実証的な研究が主流となり、多くの成果がなされている。しかしその中で次第に議論の対象から外れ、取りこぼされた観点も少なくない。今回はやや実験的に、たとえば〈無常〉の意識が源氏物語にいかにか潜在し、表出されているかといった課題をとりあげ、今日の学問的課題たり得るものか否か、試みたい。



## 〔研究発表①〕

## 『源氏物語』明石物語再考—〈族〉〈家〉を起点として—

専修大学〔院〕 加藤千智

『源氏物語』の明石一族・明石入道に関する議論を先導し、その後の研究を方向づけた論考として、阿部秋生『源氏物語研究序説』（東京大学出版会、一九五九年）を逸することはできないだろう。そこで繰り返し強調されたのは、明石入道に「家の名の回復」という悲願達成への強い執念があったということであり、以後こんにちにいたるまで、数多くの議論にそうした論点が踏襲されてきた。近時では、明石一族は光源氏を凌駕するほどの「家の名の回復」を実現したとか、光源氏没後の六条院は明石一族によって継承された等の指摘がなされてもいる。

しかしながらこうした明石一族に対する見方は、物語の記述にそくして考えた場合、適切なものといえるだろうか。明石一族と一般にいわれるけれども、彼らに「一族」という言葉は作中で全く用いられていないのであり、そうであるからには明石一族をめぐる議論のあり方じたいを根本的に検討し直さなくてはならないと考える。

こうした視点から、本発表では明石一族を光源氏と対立的に把握するような見方に再考を促し、物語が明石入道・明石一族をどのような人々として描こうとしているかについてあらためて考察する。その際、明石一族に男系男子がないという点にも注目し、ひいては平安時代の他の物語と比較することを通して、より大きな視点から『源氏物語』の〈家〉〈一族〉の描き方の特徴をあきらかにしたい。

## 〔研究発表②〕

## 紫の上と嵯峨野の御堂—『源氏物語』「若菜上」巻における光源氏の算賀を起点として—

國學院大學〔院〕 亀谷粧子

『源氏物語』「若菜上」巻には、玉鬘、紫の上、秋好中宮、夕霧（冷泉帝の代理）主催の光源氏の算賀が丹念に描かれている。彼らには光源氏の後援を受けるという共通点があるが、光源氏最愛の紫の上は、算賀の舞台に六条院ではなく嵯峨野の御堂と二条院を選んだ。

従来、光源氏の算賀は光源氏への報恩という点から六条院体制の安定と拡充を示すものとされる一方、「老いた」光源氏が明らかになる算賀は世代の交代および六条院の秩序の崩壊を示唆するとも指摘されるが、紫の上が嵯峨野の御堂より賀したことに多く論じられてこなかった。

六条院の外から妻として奉祝した紫の上の算賀とは何だったのか。嵯峨野の御堂は、光源氏の浄土信仰の象徴でありながら彼の権勢を誇り、六条院を支える人々との交流を促す場であった。光源氏の過渡期に建立された嵯峨野の御堂が「松風」巻以来描出されずにいたことをふまえると、この場における紫の上の算賀は看過できない。

本発表では、物語における嵯峨野の御堂を史料等から検討し、紫の上主催の算賀の意義を問い直したい。光源氏の意向に応じてきた紫の上は、光源氏の算賀の日に物語に埋もれた嵯峨野の御堂を掬い取ることで、主催者の威光が色濃く反映される算賀に、被賀者の光源氏が絶対的存在であるこ



とを示した。だが、光源氏が基盤とする六条院の外に束の間に現れた理想的空間は、光源氏物語の終焉への道筋を照射することになるのだった。

〔研究発表③〕

#### 陽明本源氏物語初期五帖の本文の疵と物語世界

富山大学 田村俊介

前半では、別本の陽明本が青表紙本系大島本と比べて古態性を持たないことを、初期五帖について述べる。但し、帯木については陽明叢書『源氏物語 一』翻刻・解説篇（思文閣出版、1979）の阿部秋生氏の解説、若紫については、『源氏物語 二』翻刻・解説篇の玉上琢彌氏の解説によって、古態性を有していないことが明らかになっているので、時間を掛けず簡単に済ませる。夕顔巻の「まをにもきゝならひたまはぬに御みゝさしあてたるやうに」（伊井春樹氏他編『源氏物語別本集成 続』）について、翻刻・解説篇にも取り上げられていないため、これが大島本の「まどをに聞きならひたまへる御耳にさしあてたるやうに」（新大系一一六頁）よりも非古態性を持つことを、時間を掛けて論述する。尚、伊井氏は大島本に見せ消し、傍記等があることを指摘する（『人がつなぐ源氏物語』（朝日選書、2021）三一三頁以降。その他）。だからと言って、大島本が古態性を失っていることにはならない、ということを私が述べる。『源氏物語』の主題論、人物論等では、やはり、主として大島本を底本とした活字注釈書を引用テキストにすべきであることを改めて主張する。

後半では、陽明本が、文学的にも劣っていることを述べる。

〔研究発表④〕

#### 『狭衣物語』「燕子楼の中」引用考

九州大学〔院〕 千葉直人

作り物語の場面には、漢詩の表現を随所に利用して構成されているものがある。その中でも多いのが、登場人物が詩句を朗誦するパターンである。登場人物が感情を詩句に託して口ずさむことで、その感情が象徴的・効果的に表現される。

『源氏物語』では詩句朗誦に注目する研究も見られるが、それと比較すると『狭衣物語』の場合は、まだ十分には議論されていない。登場人物の感情と密接に関わる詩句朗誦は、物語の読解のためには看過できないと考えられる。

本発表では、『狭衣物語』巻四の中の「燕子楼の中」引用を取り上げる。当該引用は白居易「燕子楼 其一」の句である。物語の中では、帝となった狭衣が意中の女性である源氏の宮からの手紙を読んだ後に、当該句を口ずさむ。狭衣は感情の昂ぶりから当該句を口ずさんだと考えられるものの、この箇所に関する先行研究はない。わずかに注釈書が、狭衣が当該句によって秋の夜長に孤独を託したと説明するが、その解釈も場面の流れからすると不十分な点がある。また、当該場面の周辺には『源氏物語』と類似する表現が見られ、『狭衣物語』の文脈と物語引用との二重構造の面からも当該句引用の意味を考える必要がある。そこで本発表では、狭衣が「燕子楼の中」に託した思いはいかなるものであったのかを、狭衣の源氏の宮思慕と『源氏物語』引用を併せて検討し、明ら

かにしたい。

[研究発表⑤]

中世王朝物語にみる宿世の諸相—『源氏物語』を見据えて—

総合研究大学院大学〔院〕 石原知明

本発表では、中世王朝物語に表れる「宿世」、「契り」の言葉を分析・分類することにより、中世王朝物語における平安時代の作り物語享受の一端を示す。それにより、「宿世」の研究史に中世王朝物語を位置づけることを目指す。

作り物語における「宿世」の研究については、「契り」の言葉と共に、前世で決まられていることが現世に影響を与えるという当時の人生観と、仏教思想との関係から『源氏物語』の主題に関わるキーワードの一つとしてこれまで多く論じられてきた。また、それらの研究を受けて、平安時代後期の物語である『浜松中納言物語』『夜の寝覚』においての宿世や契りに注目した研究も見られる。

宿世は『源氏物語』を契機に増大し、平安時代後期の物語においてはより使用頻度が上がっていることがすでに示されている。その延長に位置する中世王朝物語においては、作品毎に様々な様相を示している。多くの物語においては複数回以上、「宿世」が使用されており『源氏物語』以降の、作り物語における「宿世」の流れを見ることが可能であるが、全く「宿世」が使用されていない作品もみられる。

「宿世」「契り」という言葉から先行する物語との影響関係と中世王朝物語における特有の事例を考え、作り物語における「宿世」を通史的に読む。そこから、中世王朝物語の作者たちが読み取った物語の「宿世」を考え、『源氏物語』における「宿世」を定義する一助となす。

[研究発表⑥]

『栄花物語』にみる天人相関思想—災異への対応を中心として—

関西学院大学 渡橋恭子

天人相関思想とは、人事と自然現象の間に対応関係を認める思想である。『三代実録』の序に「祥瑞天之所祚於人主、災異天之所誡於人主」とあるように、特に君主の施策において、善政を行えば祥瑞の出現等の吉兆が示される一方、悪政を行えば災異により天が警告すると考えられてきた。

こうした思想は平安前期頃まで主流であったが、その後は御霊信仰に吸収されたと考えられ、これまで、天人相関思想が平安中期以降の貴族の生活にいかなる影響を及ぼしたかについてはさほど検討されてこなかった。しかし、『栄花物語』には一条朝および三条朝で頻発した災異をうけて行事が停止され、帝が自らを省みる様子が記されており、天人相関思想は当時の生活に根付いたものであったと考えられる。

まず、一条朝では疫病の流行により、五節を停止し祈祷が行われた。天譴の恐れがある際には、君主は身を慎み、撫民に努めねばならないと考えられていたのである。また三条朝では、二度の内裏焼亡により、過差禁制が発出された。これについて、『栄花物語』には災異と三条院の治世を関

連させる記述が存し、天人相関思想の影響がみられる。

本発表では、『栄花物語』に描かれる災異とその対応のなされ方を検討し、当時の貴族社会に天人相関思想がいかなる影響を与えたのかを考察する。またその際、『小右記』等にみられる災異記事を参照し、古記録に残された貴族の思想についてもくみ取っていく。

〔研究発表⑦〕

#### 悲恋の齋宮—『栄花物語』における当子内親王と藤原道雅をめぐって—

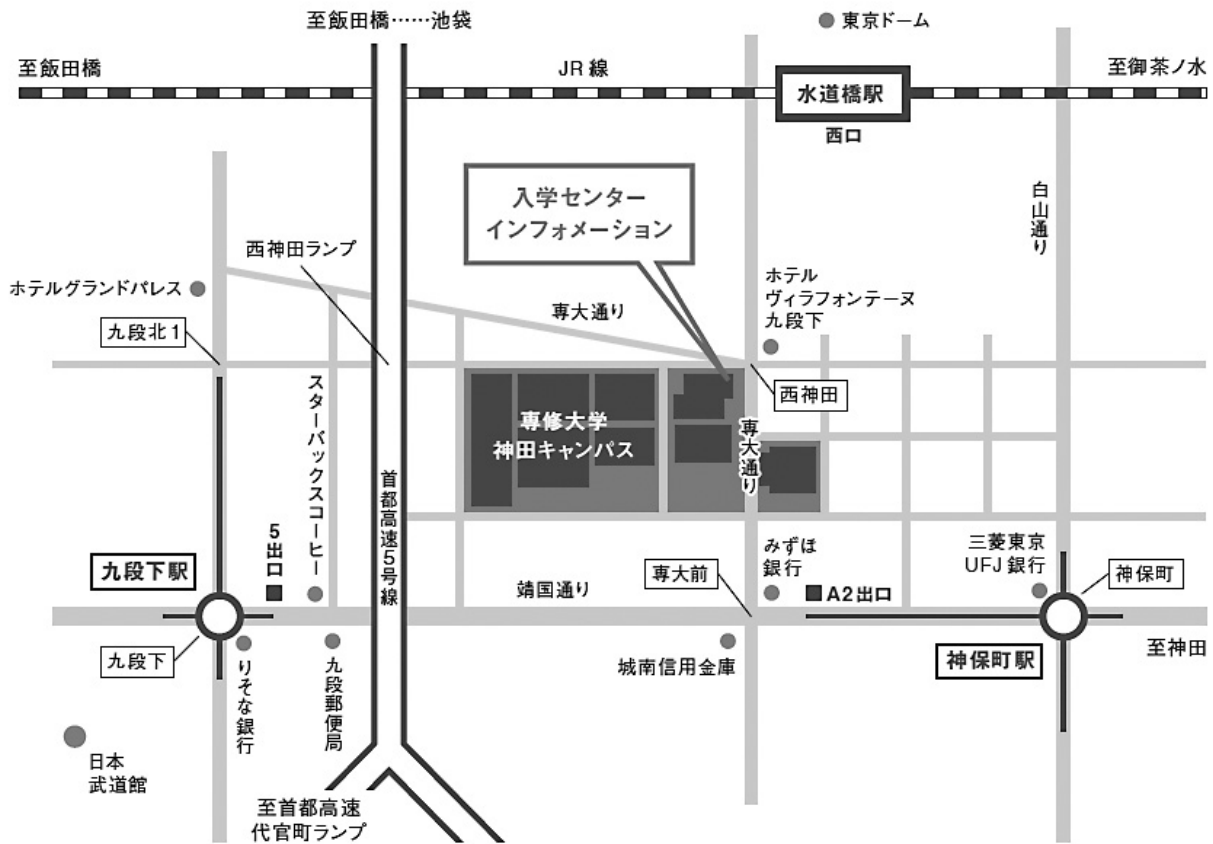
九州共立大学 二宮愛理

伊勢の齋宮は、その神秘性と高貴性を兼ね備えた魅力でもって、悲恋の当事者としてしばしば物語等に登場する。『栄花物語』における三条天皇皇女・当子内親王も、そうした悲恋の齋宮の一人である。『栄花物語』巻十二から、巻十三冒頭にまたがって、当子が藤原伊周の息子道雅と恋愛関係にあるとの噂が立ったという恋愛譚が見えるが、道雅は数首の歌を残して身を引き、当子は自ら出家を選ぶという結末を迎える。しかし、当子本人の心情を表していると思われる「御覽ぜし伊勢の千尋の底の空せ貝恋しくのみ思されて」の箇所が引歌表現で書かれており、それが読解を困難にしている。この典拠や解釈については、諸注釈でも意見が割れている。

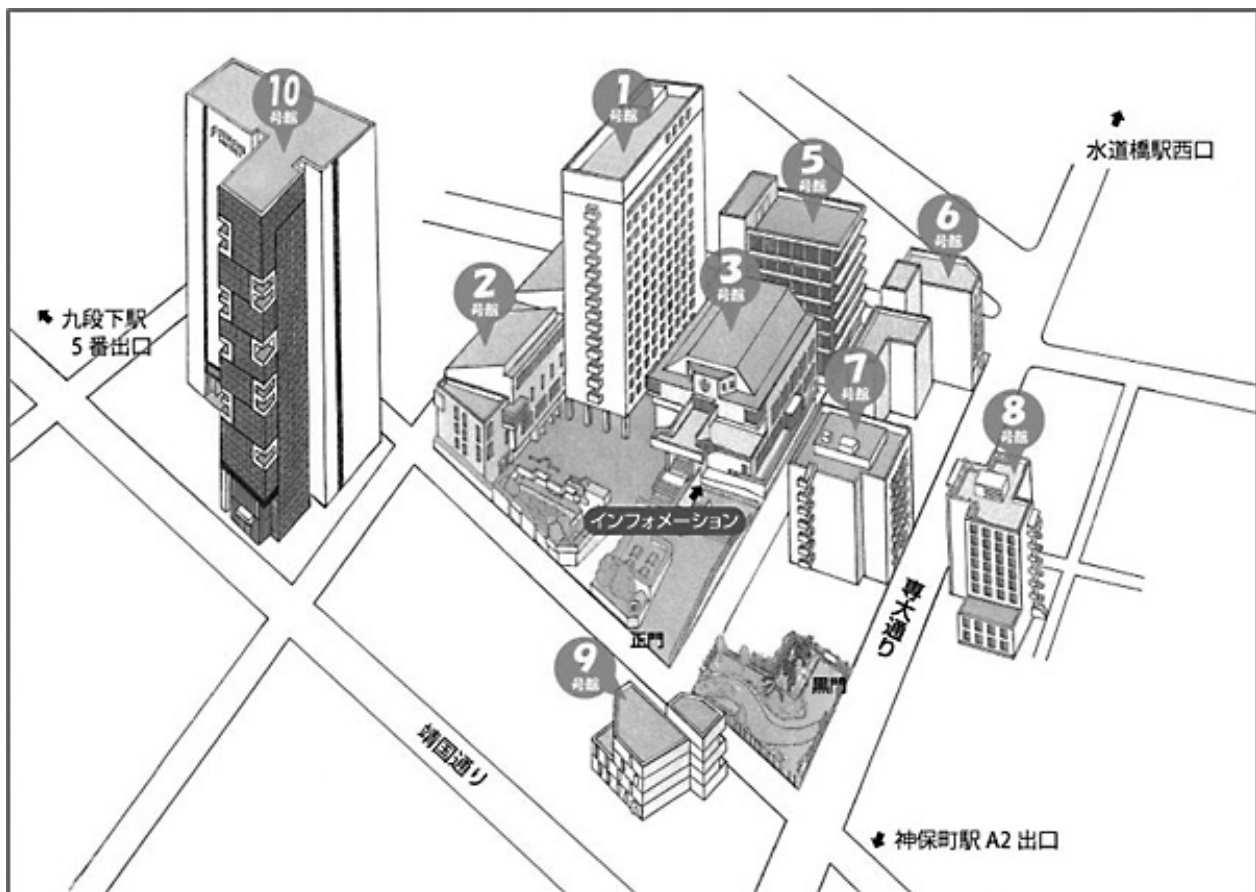
本発表では、当該部分の「伊勢」「千尋」「空せ貝」「恋し」といったキーワードから、参考となる歌を抽出し、特に「空せ貝」の用例について分析するとともに、典拠についても検討する。また、『栄花物語』での「恋し」の用例から、作品内での用法に注目する。更に、それらから当子の心情を明らかにすることに加え、道雅の和歌を含めた場面全体の読みの問題に還元する。

歴史物語に登場する齋宮を考える際、当子内親王は注目すべき存在である。従来は史実との比較から、密通の実態についての考察や、この密通が三条院に与えた影響についての考察などがなされてきた。本発表では、物語作品としての読み解きを試みる。

## 専修大学神田キャンパス 交通アクセス



## 専修大学神田キャンパス案内



- ・水道橋駅 (JR) 西口より徒歩7分
- ・九段下駅 (地下鉄/東西線、都営新宿線、半蔵門線) 出口5より徒歩1分
- ・神保町駅 (地下鉄/都営三田線、都営新宿線、半蔵門線) 出口A2より徒歩3分